令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ゆい

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0392100012		
法人名	医療法人 徳政堂 佐渡医院		
事業所名	グループホーム ゆい		
所在地	〒028-4307 岩手県岩手郡岩手町大字江刈内6-8-9		
自己評価作成日	令和5年8月7日	評価結果市町村受理日	令和6年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

町内中心部に位置しており沼宮内駅から徒歩で5分、バス停も近く交通の便が良い。地区のイベントや買い物へのアクセスが良く機動性が高い、コロナ禍で休止していた子供会を招いての交流や隣接している愛宕山の例祭参加も（7月）行えた。今後も10月の秋祭りや地区行事の参加と中学生の職場体験や演芸ボランティア等の招き入れを行い馴染みの繋がりが持てるよう支援したい。母体は、医療法人であり医療面での支援が充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は町内の中心部に位置し、住居や事業所が多く、地域との交流や利用者の日常的な外出の支援に取り組みやすい環境にある。「ゆい」のサービスを通じ、「安心して地域に住み続けることができる」という事業所の基本理念に基づき、地域との交流を行うとともに、健康面で安心感のあるケアの実践に努めている。地域のお祭りでは事業所前に設置された舞台での歌や踊りを楽しんだり、七夕祭りに子供会が来所して利用者と一緒に飾付けを行ったり、読み聞かせボランティアが定期的に訪れている。冬期には近所の事業所が除雪をしてくれているほか、災害時には近所の住民が応援に駆けつけてくれる体制が築かれている。また、事業所の母体が医療法人ということもあり、訪問診療や訪問看護が定期的に行われ、利用者や家族にとって心強い健康管理が実施されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ゆい

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関正面と事務所の常に見える場所に掲示し、意識付けに取り組んでいる。また、施設内研修で確認、共有しケアに繋げている。	開所時に作った理念を職員の目に触れる場所に掲示し,浸透を図っている。理念にある「安心して地域に住み続けることができる」ことの実現を目指し、衣食住と健康の双方に安心感のあるケアの実践に努めている。前回の外部評価後に作成した目標達成計画で定めた「理念の再考とケアの実践」については、毎月開催しているミーティングで職員全員が理念に基づいたケアが行われているかを振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域活動の参加や回覧を通じ情報を入手している。定期的なボランティアとの交流や季節行事に合わせた交流により地域の一員としての意識が持てるよう支援している。	地域の夏祭りでは事業所前に舞台が設置され、歌や踊りを利用者も鑑賞して楽しんでいる。また、七夕祭りに地区の子供会が来所して利用者と一緒に飾付けを行ったり、偶数月には絵本などの読み聞かせボランティアが訪れている。冬季には近隣の石材店が重機で除雪の支援をしてくれなど、地域とのつながりが強い。	地域との交流が再開されてきており、今後以前のような交流に取り組んでいくことを期待します。その際には、ホームの紹介、主催行事・相談会の開催案内、認知症ケアの豆知識、スタッフ募集の情報を載せた広報紙などを作成し、町内会の回覧板に挟んでもらうなどして、事業所からも情報を地域に積極的に発信していくことも期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々や訪問者に対しての相談には対応している。職場体験などの地域学生受け入れを行っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に職員も参加している。入所者の認知症への対応や生活支援等、実際の状況から説明し、理解協力を得られるようにしている。	運営推進会議は今年から対面での開催となったが、感染増加により10月以降再び書面方式になっている。会議のメンバーには地域から5人、家族から2人が入っており、会議結果は職員にも回覧され情報共有されている。会議メンバーには、夏祭りの舞台鑑賞で利用者が座る椅子をセットしてもらったり、総合避難訓練に参加してもらったと、事業所の運営に積極的に協力してもらっている。	

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ゆい

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターから出席頂いている。包括支援センターとは、普段から情報のやり取りがあり役場訪問時にも交流を図るようにしている。	運営推進会議には町の長寿介護課の地域包括支援センターからも出席してもらっている。また、町主催の権利擁護や成年後見人に関する研修会などには事業所からも参加している。生活保護の手続の相談も行うなど町と緊密に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内出入口は、施錠せず園庭への出入りが出来るようにしている。夜間は、防犯上の理由で施錠している。施設内研修で身体拘束について定期的に学び職員の意識向上に努めている。	法人全体の身体拘束廃止委員会が3ヵ月ごとに開催されており、事業所から管理者が出席し、結果を職員に回覧しているほか、事業所内でも年に2回研修を行って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、気づいた際に声を掛け合うほか、毎年勉強会を開催している。日中は玄関に施錠しないで、外に出る利用者には職員が見守ったり、同行したりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修で定期的に学び意識向上に努めている。また、職員間の交流を図り相互に相談できる関係性を構築している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を通し、権利擁護の制度について学んでいる。利用者状況に応じ相談等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、及び法改正等において文章、口頭にて説明を行い同意を得ている。不明点や疑問等がある場合は、いつでも対応する旨を伝えている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ゆい

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回の家族アンケートの実施や来訪時に家族との交流を図り意見や要望、満足度について情報を収集している、結果については、法人運営会議や運営推進会議で情報共有している。	事業所では年に1回家族アンケートを実施し、介護、食事、職員の接し方、行事や面会などの15項目について満足度の調査を行い、自由記載欄には家族の意見も記載してもらっている。集計結果は法人運営会議や運営推進会議で報告し、運営に反映させている。また、家族が面会で来所した際にも、玄関先で意見などを伺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署ミーティング等で職員間の意見交換を行っている。内容については、法人運営会議で共有を図っている。	法人の代表者や管理者は普段から話しやすい雰囲気を作るように努めているほか、毎月開催のミーティングでは職員の意見・提案を聞く機会を設けている。職員から出された、日用品の購入、訪問理容の依頼時期の改善などの意見・提案は、事業所内で運営に反映させている。ヒーターなどの経費を要する物品購入については、管理者が法人の運営会議に諮っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、勤務状況や勤務に対する姿勢等を代表者に報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を策定し、施設内及び外部研修に参加し研鑽している。本人が希望する研修やレベルアップに必要な研修が受講できるよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に属している。主に文章での交流となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談や入所後の交流などで信頼関係の構築に努めている。言葉だけではなく行動や視線、表情等にも注意を払い対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ゆい

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談で聞き取りを行い、入所後は来訪時などを活用し情報共有に努め合わせて家族状況や心境の変化等をくみ取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前面談や入所申し込み時点で状況を把握する事で、他のサービスを含めた情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者、職員がお互いの意見を持ちながら活動できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日生活の様子や健康状態を報告し家族との情報の共有を図り支援のあり方について家族の意見を伺い関係性の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月一回程度、町内のなじみの場所への買い物や季節ごとのドライブを行っている。町内理容店の訪問理容や地区行事に参加する事で関係性が途切れないよう努めている。	コロナ禍により、家族との面会は玄関先のほか、電話でのやり取りも支援している。夏祭りで馴染みの人に再会したり、入居前に住んでいた地域にドライブに出かけ、馴染みの店や公園を懐かしんだり、町内のお気入りのスーパーに買物ツアーに出掛けたりしている。また、行事や利用者の日常の様子を写真入りで伝える「ゆい通信」を毎月家族に送付し、家族との連絡が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が交流の橋渡しとなれるよう介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族等の相談や状況に応じて関係機関の情報提供を行っている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ゆい

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションを大切にし言葉だけではなく表される意向についても察する事が出来るよう努めている。入所者や言葉や行動は個別の介護記録に記しケアに活かしている。	利用者の多くは言葉でのコミュニケーションは可能であるため、一人一人の希望や意向を聞き取ることができている。言葉による意思疎通が難しい利用者については、排泄記録をみながらトイレに誘導するほか、窓辺に近寄った際は「外に出たいのかな」と推測して散歩に誘うなど、表情や動きなどを察知しながら対処している。把握した希望などは介護記録に随時書き留め、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込み時や入所前面談で聞き取り情報の収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所申し込み時や入所前面談で聞き取り情報の収集を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き取りモニタリングやミーティングを通し計画の見直しを行っている。又、主治医や訪問看護師の意見も取り入れ現状に適した計画を作成している。	介護計画は3ヵ月ごと、または計画目標に関して変化があったときには随時、見直しを行っている。利用者ごとの担当者がモニタリングを行い、カンファレンスで全職員が話し合って介護計画を作成している。作成に当たっては、主治医や訪問看護師の意見も取り入れ、家族には来所した際や電話などで説明を行い、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別記録に記載し、申し送りなど通して情報共有に努めている。文章化の難しい事柄については口頭で補うなど伝達の工夫を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの把握に努め必要に応じミーティングを行ったり関係機関に相談するなど善処に努めている。		

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 5 年度

事業所名 ： グループホーム ゆい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで通り病院受診や郵便局の利用、理容等は継続して支援している。休止していたボランティアによる慰問や子供会や地区行事も再開し始め参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関の医師がかかりつけ医となっているため報告相談を行いやすく随時指示等を受け適切な医療提供へと繋げている。	利用者全員が法人の医療機関の医師をかかりつけ医としており、週3回の訪問診療を受診している。また、週1回の訪問看護も行われ、看護師からかかりつけ医に情報を提供するなどして、訪問診療と訪問看護により、健康状態をこまめに把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の報告を行い助言を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供を行い医療機関へ対応担当者をお知らせし入院中の情報共有が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態や家族の意向を含め柔軟な対応が出来るよう努めている。また、かかりつけ医へも家族意向を伝え治療の方向性の検討を行っている。	かかりつけ医の医療機関の入院病棟が廃止されたこともあり、重度化した場合は、他の病院への入院や特別養護老人ホームなどへの住み替えについて、入居時に本人・家族等に説明している。急変時に備えて職員に喀痰吸引などの研修を行っている。	現在行っている重度化に対応できる研修を充実するとともに、かつて行っていた看取りについての研修の再開等を検討し、重度化した場合や終末期に健康状態や家族の意向も踏まえて、柔軟に対応できるようさらに取り組んでいくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や避難訓練を通して学びの機会を設けている。		

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ゆい

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練と年2回の総合避難訓練を通し職員の行動概要の把握に努めている。また、家族会、民生委員、町内会との協力体制を築いている。	事業所は土砂災害警戒区域に含まれているため、毎月の避難訓練と年2回の総合避難訓練を行っている。総合避難訓練では消防署への通報訓練と、火災を想定し初期消火の訓練も行っている。非常用連絡網には家族、民生委員を含む8名の近隣の方々が登録されており、災害時には地域の協力が得られる体制が築かれている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る事を尊重し本人のペースに合わせ自尊心を尊重した支援を心掛けている。人生の先輩であり共に生活する仲間として、お互いへの敬意が払える関係性を目指している。	利用者の自己決定を尊重し、着替え、洗濯たたみ、畑の収穫作業、食後の片付けなど、利用者が能力に応じて自立して日常生活を送れるよう支援している。利用者の誇りを損ねない呼びかけ、排泄失敗時のさりげない言葉遣いや入浴時のカーテンによる目隠しなど、人格の尊重とプライバシーの確保に配意した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常支援でも自己決定を促す声掛け支援や表情や行動に注意を払い推察できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を促す声掛け支援を心掛けている。寝たきりや閉じこもりにならないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容サービスの利用を行っている。		

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ゆい

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食誕生会は、希望食の提供をしている。畑で収穫した野菜の下処理など季節の食材に触れる事が出来るよう支援している。食器拭き等の片付けも一緒に行っている。	食事は、職員が利用者の好みなどを取り入れながら調理している。誕生日会では、お祝いされる利用者の希望する料理が食卓に上るほか、正月にはおせち料理を作り、敬老会にはお祝い弁当を取り寄せるなど、行事ごとにいつもと違うハレの食卓づくりをし、利用者にわくわくしてもらっている。また、利用者も手伝って、職員の手作りのホットケーキなどのおやつを楽しんでいる。お気に入りのスーパーで好みの総菜を買って昼食に食べる利用者もいる。利用者は、以前は野菜切りもしていたが、今はできなくなってきており、代わって食器拭きなどを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事、水分摂取量を把握し、体重の増減を見ながら個々に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促しや週二回の洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。食事摂取状況に応じ口腔内の観察も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目標に時間誘導等の支援を行っている。	トイレでの排泄を可能とするよう、一人ひとりの排泄パターンを把握し、様子をみてトイレに誘導したり、身体機能に応じた介助を行っている。誘導なしでも自立してトイレで排泄できる利用者もいるほか、声掛け誘導によりトイレでの排泄が可能となった利用者や、入居前にはおむつを使用していたが、入居後はリハビリパンツを使用し、トイレでの排泄ができるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動（1日2回以上）や食事内容に配慮しながら便秘の予防に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ゆい

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っている。個々に希望時間に沿えるよう努めている。楽しい時間となるよう会話したり入浴剤を使用するなど工夫している。清拭、足浴も可能である。	週2回、午前中の入浴を基本としている。柚子湯を提供したり、入浴剤を使って入浴が楽しくなるよう工夫している。異性介助を嫌う場合は同性の職員が介助している。冷え性の人には夜に足浴を行っている。入浴時は利用者と職員が1対1になるため、利用者は昔のことや、忘れかけていることを話してくれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活環境を整え安眠への支援を行っている。個人の状況に合わせ休養しているが寝たきりや閉じこもりにならないよう注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医、訪問看護師、薬局薬剤師などからの情報を確認共有し必要に応じた適切な服用に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた趣味、創作活動を通じ張り合いのある生活となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節のドライブで四季の移り変わりを楽しんだり、祭りの歌や踊りの見学好みの総菜の買い物などで地域の方々に声をかけて頂いたりと内に籠らないような支援に努めたい。	コロナ禍で外出を控えている中で、天気の良い日は散歩や玄関前で外気浴をしたり、事業所の裏手にある野菜畑でミニトマトの収穫の手伝いをしている。春には花見ドライブ、秋は紅葉狩りドライブなど季節の風景を楽しんでいる。町内のスーパーに買物ツアーに出掛ける利用者もいる。お盆には墓参りに行き、自宅で過ごす利用者もいる。	コロナ禍でも、外出支援によく取り組んでいますが、気分転換や五感刺激のため、天気の良い日には、散歩や買い物などで外に出かける機会をより多く作られるよう期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の要望には対応しているが本人が直接店舗へ赴くことは行っていない。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ゆい

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや希望により電話をするなど対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を一緒に作り飾りつけている。窓を開放し屋外の様子が見られるようにしている。温度や湿度など過ごしやすい環境作りに努めている。	共用の空間は天井も高めで、日中は窓を開放し、屋外の様子を見ることができる。柱、床、梁などに木をふんだんに使用し、温もりが感じられる。床暖とエアコンを完備し、快適な室温に管理されている。食堂兼居間の壁面にはドライフラワー、廊下には折り紙など利用者の作品が飾られている。	以前ホールに設置されていたソファーが撤去されていますが、椅子だけでなく、好きな場所に移動して、ソファーでも寛ぎたい利用者にはどのような支援ができるか検討されることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	省スペースや小上がりウッドデッキや園庭など好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物など自由に持ち込めるようにしている。また、趣味・創作活動で作成した作品を居室内に飾り付けるなど個々の空間作りに努めている。	居室にはベッド、クローゼット、箪笥のほか、パネルヒーターが備え付けられている。利用者は、テレビ、ラジオ、衣装ケース、家族の写真、位牌など、馴染みの物を持ち込んで居心地の良い空間作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ネームプレートやトイレ等の表記で分かりやすい環境作りに努めている。家具等の配置にも気を配り自立動作の妨げとならないよう配慮している。		